

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H31.3.12 No.40
文責 林田

☺ 3.11に思う ☺

昨日は、8年前に、東北地方太平洋沖地震による大きな被害にみまわれた日でした。大草小でも黙とうの前に「どこで、どのようなことが起きたのか」「自分の身を守るためには、日頃から心がけることは何か」など、学年に応じた指導を行いました。

また、大草タイムに実施した図書支援員による読み読みの1冊に、津波で息子を亡くした方が書かれた絵本「ハナミズキのみち（浅沼ミキ子：金の星社）」が紹介されました。

津波の被害から8年が過ぎた現在も、2500名を超える方の行方が分かっています。ご家族の心中を思うと、何ともいえない気持ちになります。

日々を忙しく過ごしていると、家族や子どもたちが元気に暮らしていることを当たり前と感じてしまいます。それは、誰でも同じことだと思います。

しかし、実は、「当たり前のことが当たり前でできる」ことほど幸せなことはないのかもしれない。

思い出してみましよう、お子さんが誕生した日のことを。家族みんなでその子が生まれたことを喜び、そこにいてくれるだけで毎日笑顔でいられたのではないのでしょうか。

ところが、(私も含めて)親とは欲張りなもので、子どもに様々な願いや期待を押し付けるようになるのです。「勉強ができる子に」「自分のことは何でも自分で」「弟や妹の面倒ぐらい見て欲しい」「家の手伝いぐらいして当たり前」…。そして、親の望むように行動できないと、感情的に「怒って」しまうことがないでしょうか。

テレビや新聞では、今も「児童虐待」等のニュースが後を絶ちません。一番弱い立場の子どもたちが、親のストレス解消のためや勝手な期待のためにつらい思いをする…。あってはいけないことだと思います。

そこにいてだけで家族を幸せにしてくれる子どもたちをギュッと抱きしめて、当たり前で暮らせることに感謝していきたいものです。



☺ 次年度への準備を少しずつ… ☺

平成30年度の大草小は、1年、2年、3・4年、5・6年という具合に、3年生以上が複式学級でした。

しかし、次年度は、1・2年生も複式学級となり「完全複式」となります。これまで困った時は常に担任の先生がいた1年生と2年生も、次年度からは新しい学級の形態での授業となります。

そこで、昨日、2年生は一足早く3・4年生の複式での授業の様子を見学させていただきました。算数科の学習の時間、3・4年生がどのように授業を進めているかを知り、心の準備をしておくことが目的でした。

2年生の子どもたちは、3・4年生それぞれが、自分たちで授業を進める様子や、担任の先生が2つの学年の間を行き来して授業を進める様子に目をぱちくり(*_*)

学級に戻った後、気付きを出し合いながら3年生になった姿を思い描いていました。

何事も、「急」には変わりません。年齢が低いほど早くから準備をし、安心して進級できるようにすることはとても大切です。私たちは、常に、先を意識しながら指導しています。ご家庭でも、そろそろ春休みの準備をなさってみては…。

